

2009年度 環境活動レポート

(2009年度版)

(2008年11月～2009年10月)

作成日 2009年 5月20日

更新日 2009年12月28日



エコアクション21
認証・登録番号 0001718



有限会社 エドランド工業

環 境 方 針

有限会社 エドランド工業

環 境 方 針

自然環境を常に意識し、継続的な汚染予防・改善に努め、『地球にやさしい物づくり、物にやさしい人づくり』をスローガンとして、全員参加のもと環境マネジメントシステムを継続的に運用し、環境保全・環境負荷低減に努めます。

環境保全への行動指針

1. 次の項目について、環境目標・活動計画を定め、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)

・購入電力、社用車燃料、灯油

水使用量の削減(水資源の保全)

・地下R及び水道水

廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)

・可燃ゴミ

・資源ゴミ(金属屑、段ボール他)

・産業廃棄物(汚泥、廃油)

地域での環境活動への積極的参加

2. 環境関連法規制及び協定を遵守します。

3. 環境への取組を環境活動レポートとして取りまとめ公表します。

本方針は全従業員に周知するとともに、地球環境意識の徹底を図っていく。



制定 2006年 9月18日

改訂 2009年 9月18日

有限会社 エドランド工業
代表取締役社長 久保 公司

1. 事業所の概要

(1) 事業所名、代表社名及び所在地

事業所	有限会社 エドランド工業
代表者	代表取締役社長 久保 公司
所在地	岐阜県関市下有知 3846-1

(2) 管理責任者指名及び担当者連絡先

管理責任者	製造部 次長	猿渡 博美
担当者	本部 営業課長	山田 裕二
連絡先	TEL.	0575-22-0451(代)
	FAX	0575-24-1632
	e-mail	edems@edlund.co.jp

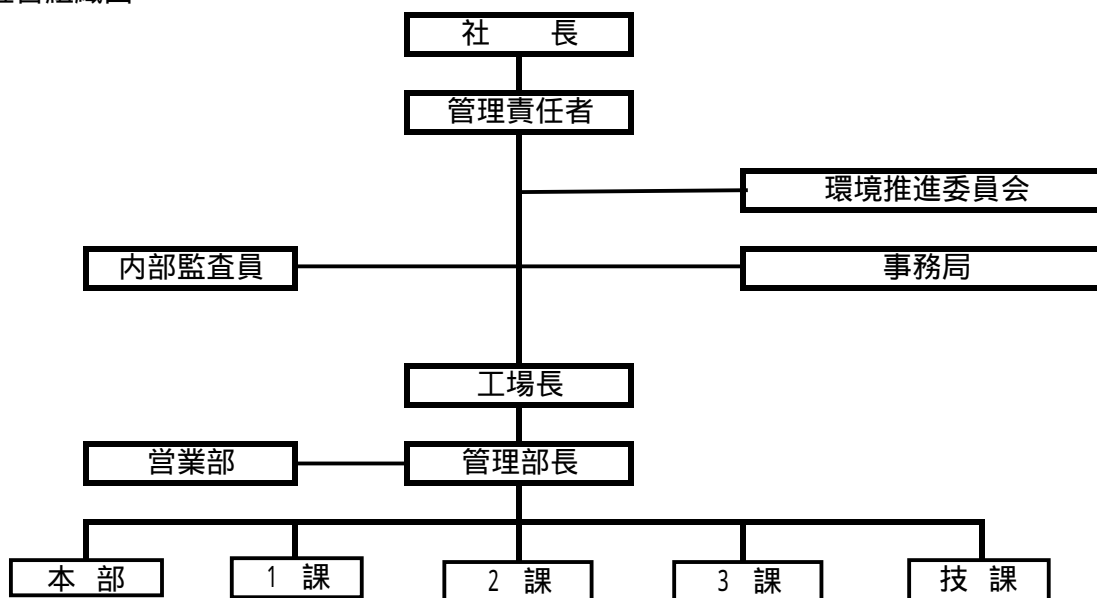
(3) 事業内容及び認証・登録の範囲

事業内容	当社は”刀匠の里”として全国的に知られております関市北西部に位置し、1919年(大正 8年)創業し、創業90年に成ります。 主として、刃物及び金属加工品の設計・製造・販売を行っています。
認証・登録の範囲	刃物、金属加工部品の設計・製造・販売

(4) 事業の規模

項目	2006年	2007年	2008年	2009年
売上(千円)	533,400	582,136	631,200	360,000
従業員数	45人	44人	44人	36人
事業所床面積	敷地 2,800坪		建物 820坪	
事業年度	11月～1翌年10月			

(5) 環境経営組織図



推進委員会メンバー

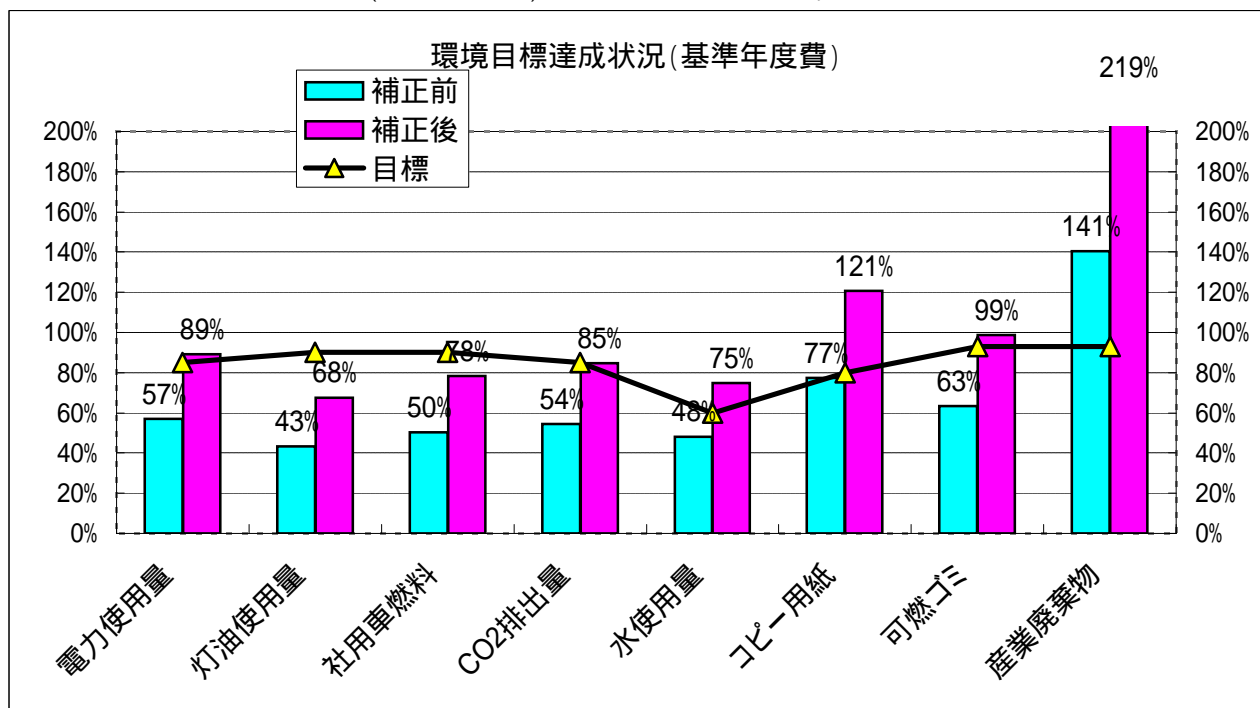
社長、管理責任者、工場長、管理部長、各部門エコ委員、事務局及び内部監査員で構成する。

2. 環境負荷実績、環境目標及び実績

項目	単位	2006年 基準年度	2007年	2008年	2009年			2010年	2011年	2012年	
					目標	実績	基準年度比				
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	GWh	440.3	399.8	381.5	15%削減	251.7	57.2%	20%削減	23%削減	25%削減
				358.5	319.6			392.8	89.2%		
	灯油使用量	リットル	14,080	12,138	7,820	30%削減	6,100	43.3%	40%削減	43%削減	45%削減
					10,885	6,551			9,518	67.6%	
	社用車燃料	リットル	8,675	7,781	7,641	10%削減	4,361	50.3%	25%削減	25%削減	25%削減
					6,978	6,401			6,805	78.4%	
	内訳	ガソリン	リットル	2,206	2,422	2,368		1,007	45.6%		
				2,172	1,984			1,571	71.2%		
軽油	リットル	6,469	5,359	5,272		3,354	51.8%				
				4,806	4,417			5,234	80.9%		
CO2排出量	t-CO2	223.6	201.1	183.0	15%削減	121.5	54.3%	22%削減	25%削減	27%削減	
				180.3	153.3			189.6	84.8%		
省資源の推進	資源投入量 (鋼材)	kg	95,270	62,231	74,929	目標設定 なし	49,104	—	目標設定 なし		
	水使用量	m3	63,405	47,263	39,284	40%削減	30,408	48.0%	35%削減	38%削減	40%削減
				42,386	32,911			47,448	74.8%		
コピー用紙 使用量	kg	90.4	109.3	61.0	20%削減	69.9	77.3%	目標設定 なし			
				98.0	51.1			109.1	120.7%		
廃棄物の排出抑制	可燃ゴミ	kg	1,360	1,610	1,550	7%削減	860	63.2%	5%削減	8%削減	10%削減
				1,444	1,299			1,342	98.7%		
	産業廃棄物 (汚泥、廃油)	kg	14,515	20,900	16,900	7%削減	20,402	140.6%	5%削減	8%削減	10%削減
				18,743	14,158			31,835	219.3%		
製品生産量	kg	57,519	33,595	37,330	目標設定 なし	17,470	—	目標設定 なし			
製品生産高	万円	53,047	59,151	63,320	目標設定 なし	33,996	—	目標設定 なし			
		補正係数 100	1.115	1.194			0.641				

(注記) 1. 2007年以降の下段は生産高補正後の値を示す。(使用量/補正係数)

2. 環境目標の達成状況(基準年度比)のグラフを下図に示す。



3. 環境目標活動計画と活動結果の評価

取組計画	達成状況		単位	責任部門	評価(活動結果と今後の取組み)
	基準年度	実績	基準年度比		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 省エネ・省資源ルールの遵守 冷暖房機器の温度管理 冷房28℃、暖房20℃に設定) 不必要照明の消灯 製造設備・機器の節電 照明設備の改善 (SW追加による個別照明他) 省エネ機器への切替	基準年度 440.3	GWh	全部門	目標未達成 基準年度に比べ、約190GWh削減できたが、生産減少の影響が大と考える。 ～については、節電意識の定着により、ほぼ実行できた。 本年度は、省エネ機器への切替は対象設備がなく実施できなかった。 次年度以降の目標を達成するために省エネ機器への切替を推進する。 なお、太陽光発電導入検討会を設け導入の可能性を検討する。
	目標	374.3	85%		
	実績	251.7	57.2%		
	補正後 実績	392.8	89.2%		
灯油使用量の削減	省エネ・省資源ルールの遵守 ストーブ使用方法の見直し 不要ストーブの削減 職場の防寒対策	基準年度 14,080	リットル	製造部門	目標達成 基準年度に比べ、約8,000リットル削減。 省エネ・省資源の意識定着により大幅な削減につながったが、昨年導入した廃油ストーブの使用量及び電気ストーブの使用頻度が増加傾向にあり暖房機器の使用方法を見直すこととした。
	目標	9,856	70%		
	実績	6,100	43.3%		
	補正後 実績	9,518	67.6%		
社用車燃料使用量の削減	運転マナーの励行 給油量、走行距離の記録 効率的な集配業務の実行	基準年度 8,675	リットル	本部	目標達成 基準年度に比べ、約4,300リットル削減。 生産減により使用量も減ったこともあるが による省エネ・省資源の意識定着が要因と考えられる。 生産計画にあった集配計画の検討ができなかったため、今後は集配計画による効率的な集配に努めていきたい。
	目標	7,808	90%		
	実績	4,361	50.3%		
	補正後 実績	6,805	78.4%		
省資源の推進	水使用量の削減 省エネ・省資源ルールの遵守 水道水の有効利用 道路、屋根の打ち水制限 池への給水制限	基準年度 63,405	m ³	全部門	目標未達成 基準年度に比べ、約33,000m ³ 削減できたが、生産減少の影響が大と考える。 ～については、節水意識の定着により、ほぼ実行できた。 次年度は雨水の有効活用の検討会を設け、実現の可能性を検討していく。
	目標	38,043	60%		
	実績	30,408	48.0%		
	補正後 実績	47,448	74.8%		
コピー用紙使用量の削減	コピー枚数の調査 裏面コピー、両面コピーの活用 パソコンの活用による配布資料の削減	基準年度 90	kg	本部	目標未達成 基準年度に比べ、20kg削減できたが、生産高減少の影響が大と考える。 ～については、ほぼ実行できたが、EMS文書の配布先等の見直しを行い削減に努めていく。 なお、本目標は本年度で終了し、使用量のみ調査することとする。
	目標	72	80%		
	実績	70	77.3%		
	補正後 実績	109	121%		

取組計画		達成状況		単位 基準年度比	責任部門	評価(活動結果と今後の取組み)
廃棄物の排出抑制	可燃ゴミの排出削減 可燃ゴミ排出ルールへの遵守 リサイクルの促進 (段ボール、木屑等分別収集) 包装材の有効利用	基準年度	1,360	kg	全部門	目標未達成 基準年度に比べ、500kg削減できたが、生産減少の影響が大と考えられる。 、によるゴミ削減の意識啓蒙だけでは、削減が難しいので、リサイクル、再利用に着目した活動を行うこととした。
	目標	1,265	93%			
実績	860	63.2%				
補正後実績	1,342	98.7%				
産業廃棄物の排出削減 汚泥、廃油の排出量調査 産廃業者引取量の確認 汚泥の軽量化の検討	基準年度	14,515	kg	2課 3課 本部	目標未達成 基準年度に比べ、約6t増加。 汚泥(約3t)、不燃ゴミ(約2t)の増加要因としては、不要となった粗大ごみ、砥石等を処分したためと考える。 今後は、汚泥の軽量化(水分除去)の検討会を設け、実現の可能性を検討していく。	
	目標	13,499	93%			
	実績	20,402	141%			
	補正後実績	31,835	219%			
総括	(1)二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応) 基準年度に比べ、約102t-CO ₂ 削減。(生産高補正後実績は、ほぼ目標を達成できました。) 灯油、社用車燃料使用量が目標を大幅に達成できたこと、及び電力使用量についても目標にわずかに届かなかったが削減できたことが要因と考えます。 環境目標(電力、灯油、社用車燃料使用量の削減)毎に、取組みの具体策を検討し環境改善に取り組んでいきます。					
	(2)省資源の推進 水及びコピー用紙使用量の削減については、生産減少による影響が大きく目標を達成することができませんでした。 水使用量については、節水に努めるとともに雨水の有効利用方法の検討し、削減に取り組んでいきます。 コピー用紙使用量削減については、削減メリットも少ないため、今後は使用量の調査のみ行い活動を中断します。					
	(3)廃棄物の排出抑制(循環型社会への対応) 可燃ゴミについては、基準年度に比べ500kg削減したが、生産減少の影響が大きく目標を達成することができなかったため、今後はリサイクル、再利用に着目した活動を行います。 産業廃棄物については、基準年度に比べ約6t増加し目標を達成することができなかったため汚泥の軽量化の検討会を設け、削減の可能性を検討します。					
	(4)活動全体について 内部監査を2回実施し(4月、9月)、発見された不適合は全て是正処置が完了しました。 エコアクション21中間審査(7月)の結果、指摘事項(評価B)の是正処置を行ない、無事審査を終了しました。 マネジメントレビュー(11月) 2010年以降新たな中期計画の設定が必要となり、「環境方針」が改訂され、環境目標も一部見直しし、3年間の目標値を設定し環境改善活動に取り組んでいきます。 品質・生産性に関する改善活動(詳細は6項参照) 2008年度より、各部門毎に目標を決め、“QC手法”を活用した改善活動に取り組んでいますが、改善の進め方の理解不足な面もみられ勉強会を通じレベルアップを図り、活動成果に結びつけていきます。					

4. 環境関連法規等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規は、次のとおりです。

適用される法規	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	遵守評価
水質汚濁防止法	貯油場、廃油置場、貯水池	油流出事故なく 違反なし
廃棄物処理法	一般廃棄物(可燃ゴミ他) 産業廃棄物(汚泥、廃油、不燃ゴミ)	違反なし (マニフェストを保管)
騒音・振動防止法	空気圧縮機、機械プレス	知事に届出済
PCB特措法	油入変圧器、高圧コンデンサ	知事に届出済
消防法	火災報知機	消防署に届出済
遵守状況	環境関連法規等の遵守状況を評価した結果、環境関連法規への違反及び訴訟は、過去3年間ありませんでした。	

5. その他活動計画と活動結果の概要

取組計画	責任部門	評価(活動結果と今後の取組み)					
		不良率	B1-201	B3-210	計	のみの改善 ゲージ未作成	
品質・生産性に 関する改善活動	1 課	大抜不良の削減(B1-201、B3-210) 目標値:不良率 3%以下	改善前	2.10%	1.71%	1.97%	のみの改善 ゲージ未作成
		改善策 送りガイドをローラーベアリングに交換 試打前に空打ちを行いエアバルブを暖める	改善後	1.57%	1.95%	1.68%	
			試打不良が依然と多く、冬季に不良が多くあり要因を検討したところ、温度が低いとエアバルブの動作が悪いので、バルブの周辺を暖める対策等を行い、不良の削減に取り組んでいく。(目標値 1.2%以下)				
	2 課	研磨不良の削減 目標値:不良率 3%以下	改善前	1436	2.05%	改善策を行った結果、 不良が激減し、改善効果が 得られた。	
		改善策 寸法マイナス 寸法出の仕方を統一 暖気運転 10分 カップ研磨 ゲージの色が変わったら 寸法チェック 平面研磨 寸法+で一旦止め、 寸法チェック	改善後	184	0.08%		
			研磨不良削減については成果が得られたので、次年度は、不良が多い検査工程の不良削減に取り組んでいく。 (目標値 1.2%以下)				
	3 課	不良の削減(T1-017、T1-026、Q2-002) 目標値:不良率 3%以下	2008年	1.52%	0.59%	0.73%	合計 1.25%
		改善策 研磨機、治具の点検・修理 研磨後の寸法チェック 外注部品の受入検査の徹底 (手直し)	2009年	1.16%	0.23%	4.45%	1.16%
			改善策の実施により、不良が約0.1%減少したが、作業員への不良削減意識に頼るところがあり、今後は、各工程の不良発生要因の究明、改善策を実施し不良削減に取り組んでいく。				
	技 課	製作図面の整理 目標値:100件/月	CADデータ数	3,300件			
		改善策 登録件数の把握 最新版図面の確認 製作実績の確認	図面整理件数	59件/月(未達成)			
			よく使う図面より優先して整理し、登録し直した。 仕事の関係で活動時間が十分に取れず、目標未達成であったため、今後は時間を決めて整理することとした。				

		責任部門	評価(活動結果と今後の取組み)
	品質管理(検査表の作成) 目標値:55件(年)	本 部	作成検査表 31件(未達成) 作成した検査表で検査した結果、社外流出(クレーム)がなく効果があったと考える。 仕事の関係で活動時間が十分に取れず、目標未達成であったため、今後は時間を決めて整理することとした。
	改善策 検査表の作成 検査表に素早く検査の実施 不適合品の是正処置・確認		
環境意識の高揚	「環境目標」等の職場掲示と 従業員の環境意識の向上・定着	事務局 エコ委員	次の文書を各職場に掲示し、従業員の環境意識の向上・定着を図った。 ・環境方針、環境目標・活動計画一覧表 ・省エネ・省資源ルール
	「教育訓練計画」に従い、教育訓練を実施する。	全部門	「教育訓練計画表」で決めた教育・訓練はほぼ計画とおり実行できた。
	環境改善の事例発表会を行う (発表者含め全員参加)	事務局	前年度活動結果の発表会を11月に開催した。 発表者:本部、1課、2課、3課、技課の代表者
	5S運動の定着	全部門	終業後5分間、各職場の整理、清掃を実施した結果、以前に比べ、機械、作業場も整理・整頓・清掃され5Sがかなり定着してきたと考える。 今後は、「目で見える管理」ができるようにしていきたい。
結果確認	環境推進委員会で改善状況・結果を確認し、適切な処置を行なう。	推進委員会 メンバー	毎月1回、環境推進委員会を開催し次の事項を確認している。 環境目標達成状況、活動結果 改善課題の検討及びそのフィードバック
緊急時の対応	避難訓練を実施する	本 部	「緊急事態発生時の対応手順書」に従い、8月実施。 地震発生時の避難訓練を実施し、出勤者全員手順通り避難でき無事訓練を完了した。
	油流出時の対応訓練を行う	本 部	「緊急事態発生時の対応手順書」に従い、5月実施。 ほぼ手順通り実行できたが、中和剤置場の前にドラム缶があり、ドラム缶置場を即時変更した。
	トラックへの荷積作業訓練を行う	本 部	荷積み訓練を兼ね、関警察署より道路交通法改正点と交通事故に対する注意事項等の講習会を行った。 (全員対象)

6.2010年度活動計画

環境目標		目標値	担当	主な活動計画・取組
省エネの推進	電力使用量の削減	2006年比 20%削減	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節電に努める。 空調機器の温度管理(設定温度) (夏季:28、冬季:20) 不必要照明の消灯 設備・機器の節電(空運転等の禁止) (2)省エネ機器の導入検討(照明他)
	灯油使用量の削減	2006年比 40%削減	1 課 2 課 3 課	(1)省エネ・省資源ルールに従って節約に努める。 火力の調整他 指定場所以外は原則使用禁止 (2)職場の防寒対策
	社用車燃料使用量の削減 (ガソリン、軽油)	2006年比 40%削減	本 部	(1)運転マナーの励行、燃料節約に努める。 (2)効率的な集配業務の実効 (集配計画の立案と実行)
省資源	水使用量の削減 (地下水、上水)	2006年比 40%削減	全部門 推進 メンバー	(1)省エネ・省資源ルールに従って節水に努める。 (2)雨水の有効活用の可能性検討
廃棄物の排出抑制	可燃ゴミの排出削減	2006年比 5%削減	全部門	(1)分別収集、排出抑制に努める。 (2)リサイクルの推進 (段ボール、木屑他)
	産業廃棄物の排出削減	2006年比 5%削減	2 課 3 課 推進 メンバー 全部門	(1)廃棄物(汚泥、廃油)排出量の調査 (2)汚泥軽量化、保管方法の検討 (3)粗大ゴミ、廃プラ保管方法、場所の検討 (4)金属屑の分別収集と異物投棄の禁止
その他	品質改善、生産性向上 に向けた活動	各部門目標 による	1 課	大抜不良の削減、
			2 課	検査不良の削減
			3 課	不良の削減
			技 課	製作図面の整理
			本 部	検査表(検査項目)の作成